



## シリア、ヨルダン：ラッカでヨルダン軍パイロットが「イスラーム国」に拘束される

12月24日、シリアのラッカで、米国主導の対「イスラーム国」空爆に参加していたヨルダン軍戦闘機F-16が墜落し、同戦闘機を操縦していたヨルダン人パイロットが「イスラーム国」戦闘員に拘束された。同日、「イスラーム国」はイスラーム過激派掲示板サイトにヨルダン人パイロットを拘束した様子、IDカード、装備品の画像数枚を掲載し、「イスラーム国」戦闘員が有志連合のヨルダン軍戦闘機をミサイルで撃墜の上パイロットを拘束した、と発表した。画像に示されたIDカードによると、拘束された人物は「ムアーズ・サーフィー・ユースフ・カサースバ」で、1988年生まれ、空軍中尉パイロットである。

ヨルダン政府も米国政府も、ヨルダン人パイロットが「イスラーム国」に拘束されたことを認めた。しかし同事件がいかなる過程で発生したかという点については、確認が取れていない。事件当初、ヨルダンのムハンマド・ムーマニー情報相は、戦闘機は地上からの攻撃で撃墜されたと思われると発言していたが、後にアメリカ中央軍（CENTCOM）報道官は、「証拠」から判断するに事故であるとして、「イスラーム国」による撃墜情報を否定した。「証拠」が具体的に何を示すのかは明らかにされていない。CENTCOMは、今後詳細な調査を行うとしている。

なお、英国に拠点を置く「シリア人権監視団」は、シリアからの現地情報として、拘束中のヨルダン人パイロットの生存を確認したと発表している。

### 評価

8～9月に米国主導の有志連合によってイラク及びシリアの「イスラーム国」拠点に対する空爆が開始されて以来、有志連合軍の戦闘機が墜落し、パイロットが「イスラーム国」戦闘員に拘束されたのは初めてである（11月30日に事故による戦闘機墜落及びパイロット死亡事故があったのみ）。

「イスラーム国」がグラッドなどの対空ロケットを所有・使用していることは既に確認されている。しかし、CENTCOM発表のように撃墜ではなく事故による墜落であったとしても、有志連合側の要員が「イスラーム国」に拘束された事実が有志連合側に与えた衝撃は大きく、戦略再考を多少なりとも余儀なくされるだろう。また、今後、「イスラーム国」がパイロット拘束に関して何らかの声明や要求を発表するかどうかにも注視しなければならない。

（イスラーム過激派モニター班）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799